

コース 33 いわきさん はっこうださん 岩木山と八甲田山

リーダー CL K/T SL E/S, M/T

実施日 平成26年10月9, 10, 11日(木、金、土) 天候 曇り、強風、後晴れ

参加者 32人 (男性7 女性25)

グレード B上~C

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
9日秋葉区役所前	—	20:30	駅西口、荻川地区体育館前経由
新潟西港	21:20	23:15	乗船22:30 早めに就寝
10日秋田港	5:45	6:05	弘前のアップルロードに目を奪われる
岩木山スカイライン上部	10:25	10:45	車窓から山頂部ガス、中腹一帯紅葉
岩木山山頂	12:25	13:05	強風とガスとゴロ石帯を行く
スカイライン上部	14:40	15:10	山頂避難小屋で昼食、安全第一に下山
酸ヶ湯温泉	17:20	—	高度が上がるにつれ黄紅葉が増す
11日酸ヶ湯温泉	—	5:30	酸ヶ湯前後一帯が黄紅葉の最盛期
地獄湯ノ沢	7:05	7:25	ガスの噴出も少なくここで朝食
八甲田大岳	9:00	9:15	急登1時間全員無事登頂、感激・感謝
上毛無岱、展望デッキ	11:00	11:10	大岳、下毛無岱への展望の素晴らしさ
酸ヶ湯温泉	12:40	13:40	入浴と昼食 帰路城ヶ倉溪谷の人出
荻川地区体育館	22:10	—	予定より若干早めに帰着

山行等概要(幹事のコメント)

- 東北北部の名峰で日本百名山の2座の山行を往路秋田港までの船と復路東北道経由。紅(黄)葉の八甲田山のベストシーズンに合わせて設定した。この2座は対照的な山で、岩木山は津軽平野の西端にあって日本海に面して屹立する単独峰、片や八甲田山は内陸部にあっていくつかの山群の総称とのこと。
- 現地初日の岩木山は、地元では“お岩木やま”とも“津軽富士”とも親しみと尊崇の念で呼ばれ、その富士山型の美しい姿と頂上での360度の大眺望を期待した。しかし、この日は北海道付近の低気圧の影響で残念ながら濃霧の中での山行となった。
- 一方、八甲田山は新田次郎の「八甲田山死の雪中行軍」で広く知られることとなったが、冬季の雪の深さ、夏の湿



八甲田山(1584.4m 日本百名山)山頂にて

原の花々、秋の紅葉など、四季を通じて魅力いっぱいの山域となっている。今回は山頂に着くまでは前日の延長で強風とガスと寒さの中だったが、大岳ヒュッテを過ぎる頃から天気も回復してきて、紅葉のスケールはその色合いとともに正に日本一ではないかとその片鱗を実感させられた。

- 今回の足かけ3日、実質2日の山行は、名湯酸ヶ湯温泉と青森リンゴのおまけ付きもあって、紅葉ベストシーズン中、変化に富む山行となり、参加者の皆さんにも一応の満足を得られたのではないかと思う。



上毛無岱の草紅葉

「錦秋の景色と名湯を楽しんだ岩木山・八甲田山山行」

(1556) H/H

青森へ行く車窓から津軽富士の秀麗な姿を見たときに、いつかはあの山に登りたいという願いをもっていました。そこで今回新津ハイキングクラブの計画に喜んで参加しました。

岩木山8合目の登山口からの登りは、濃霧と強風の中、ガレ場の登りで、私の甘い見通しを打ち砕くきつい登りとなりました。頂上についても全くの視界不良で、晴れていれば360°の素晴らしい見晴らしだというリーダーの話も想像できないほどで、そそくさと昼食を食べて下山しました。

期待した酸ヶ湯温泉の湯は本当に期待通りの名湯で、昔の湯治場の名残を残した千人風呂も、やや小ぶりな男湯も、白濁した湯加減は、浸した体を癒してくれるものでした。そして、明日の八甲田山行の晴天を願いながら床に就きました。

翌日の酸ヶ湯からの八甲田大岳に向けての登りは昨日と同じ濃霧の中の登りでした。標高が高くなるにつれ、時折霧の晴れ間から覗く下界の景色の素晴らしさに歓声を上げながら八甲田の最高峰、大岳に到着しましたがやはり霧の中でした。

それが、下山途中の大岳避難小屋に着く頃からは霧がすっかり晴れ、八甲田山の全容が見渡せるようになりました。すばらしかったのは、上毛無岱から降りる途中で見下ろした下毛無岱の草紅葉の広大な池塘の眺めでした。そして圧巻だったのは、逆に下毛無岱から見上げた眺めでした。大岳や赤倉岳、井戸岳を背景に、広葉樹の赤や黄そしてハイマツの緑が織り込まれた山肌、そして目の前に広がる草紅葉の広大な池塘は、どんな感動の声もその素晴らしさを言い表せないほどの眺めでした。

こんなすばらしい所に連れて行ってくれたリーダーの方々、感謝、感謝であります。



岩木山(1624.7m 日本百名山)山頂にて